

関係各位

宮城県立古川支援学校

校長 佐藤 裕之

### 学校評価のためのアンケートについて

昨年11月、保護者の皆様と本校教職員に学校評価のためのアンケートを実施しました。結果を下記のようにまとめました。

本校の学校教育目標（学校が目指す長期目標）

児童生徒一人一人の特性や発達段階に合わせた教育を行い、自立や社会参加をめざして、人との関わりを大切にしながら、健康で心豊かな児童生徒を育成する。

具体目標（目指す児童生徒像）

- 知：自ら学び自ら行動する児童生徒（「確かな学力」の育成）
- 徳：仲良く助け合う児童生徒（「豊かな心」の育成）
- 体：明るくたくましい児童生徒（「健やかな体」の育成）
- 自立：自分らしく成長していく児童生徒（「自立する力」の育成）

本年度の重点目標

- ①地域の実情、地域の方や保護者のニーズ、児童生徒の状況等を把握し、児童生徒の健やかな学びを保障する地域と連携した教育活動の充実を図る。（知・体）
- 『地域連携協働推進チーム』を立ち上げ、既存の教育活動を見直しながら、新たな教育課程を構築する。
- ②児童生徒一人一人の学習面・生活面を支える基礎となる自立活動の指導力を向上させるとともに、組織として特別支援教育の専門性の向上を図る。（知）
- 自立活動の指導力向上
- 特別支援教育の専門性の向上

#### 1 アンケート項目及び回収率

本校の「本年度の重点目標」に沿った形で質問項目を設定しております。質問項目は、教職員アンケート7問と自由記述欄、保護者アンケート6問と自由記述欄としました。

保護者アンケートの回収率は、58.3%（130名/223名）でした（1家庭1回答）。

## 2 アンケート結果について

評価段階を5つ（「そう思う」、「ややそう思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」、「分からない」）に設定しました。「そう思う」（+2点）、「ややそう思う」（+1点）、「あまりそう思わない」（-1点）、「そう思わない」（-2点）、「分からない」（±0点）として点数化し、S・A・B・Cの4段階評価としました。

表1

	S評価（180点以上）	A評価（120点以上）	B評価（80点以上）	C評価（80点以下）
教職員アンケート	1/7項目	5/7項目	1/7項目	0/7項目
保護者アンケート	3/6項目	3/6項目	0/6項目	0/6項目

全体的に令和7年度の学校教育目標に向けての取組はおおよそ達成できたと考えます。次に「経営の基本方針」、「重点目標①」、「重点目標②」、「コンプライアンス等」の順に考察していきます。

### （1）経営の基本方針について

職員アンケート結果はA評価、保護者アンケート結果はS評価でした。教職員一人一人が本校の経営の基本方針を理解し、教職員がチームとなって実践してきたことが保護者の皆様にも伝わり、同じ方向を向いて児童生徒の成長に関わることができました。また、保護者や関係機関と連携を図ってきたことで、児童生徒の実態を考慮した学級経営、学年経営、さらには学部経営、学校経営を進めることができたと考えます。今後も、保護者、関係機関と情報を共有し、学校として特別支援教育の専門性を生かし学校全体が一丸となって、児童生徒のより良い成長を目指し教育活動に取り組んでいきます。

### （2）重点目標①について

職員アンケート結果は、「学校は地域資源を活用した活動を積極的に実施できたか」という設問では、B評価、「地域の実情や、地域・保護者が本校に期待していることを把握し、教育活動に取り組むことができたか」という設問ではA評価、保護者アンケート結果はS評価でした。

B評価だった設問に対しては、「地域資源を活用した学習活動」が教職員の中でどんな学習活動を指しているのか周知できていなかったことが原因として挙げられました。しかし、学部での話合いの中で、様々な地域資源を活用して学習活動に取り組んでいたことを振り返ることができました。今後は、取り組んでいくなかで意識できるように、年度始めに、各学部で確認したり、実施要項等で可視化したりするようにしていきたいと思えます。

また、学部によっては、地域の実情や、地域・保護者が本校に期待していることへの把握が難しかったと考える教職員がいました。今年度「地域協働推進プロジェクト」を立ち上げました。そのチーム内で、地域と連携した活動について、学部ごとに何ができるか、何を実施して

いるかなどを話合っはいたものの、地域の実情や地域・保護者の皆様のニーズにあっているか等、吟味するところまでは至っておらず、ニーズについては、アンケートに取り組むことが遅かったため、把握できなかつたと考えます。ニーズを把握するため、遅くなりましたが、11月にアンケートを実施した結果、地域・保護者の皆様、教職員共に「知的障害に関する理解と啓発活動」「防災に関する連携」「環境整備」が共通のニーズとしてあがりました。今後は、インクルーシブ教育を推進するとともに、災害等に備えた地域との連携を図り、安心安全に学校生活を送ることができるような環境を整えていく必要があると捉えます。来年度「学校運営協議会」が発足し、地域・保護者の皆様と話合いを重ねていく予定です。「社会に開かれた教育課程」を目指し、地域と共に歩んでいくことができるようにしていきたいと考えます。そして、地域協働推進の教職員が中心となり、「地域資源」「地域の実情」を意識して学習活動に取り組めるように研修会等を実施し、全職員が共通理解した上で進めていきたいと思ひます。

### (3) 重点目標②について

職員アンケート結果はA評価、保護者アンケート結果は「地域の中の特別支援学校として、保護者の皆様や地域の方のニーズを具体的に捉えることができるか」の設問では、A評価、「特別支援教育の専門性を生かして、教師同士で連携を図りながら、特性に応じた支援・指導」の設問では、S評価でした。

「地域の中の特別支援学校として、保護者の皆様や地域の方のニーズを具体的に捉えることができるか」については、重点目標①の部分でも記載しておりますが、今年度アンケートで寄せられたニーズを基に、教職員一丸となって取り組んでいきます。

「教師同士の連携を図りながら、特性に応じた支援・指導」では、今後も教職員一人一人が特別支援教育の専門性の向上を目指すとともに、研修や話合いを通して教職員が共通の見方で児童生徒の特性を把握し、支援していききたいと思ひます。

### (4) コンプライアンス等について

「体罰等の防止に努め、子供の人権を尊重した支援・指導」については、職員アンケート結果、保護者アンケート結果共にA評価でした。

教職員一人一人が、児童生徒への指導等に対して振り返り、コンプライアンスに関するアンケートや教職員から聞き取り等を定期的に行い、職員会議等で、本校教職員として今後も気を付けていくことを確認する場を設けています。今後も児童生徒の人権を尊重し、教職員全体で体罰等の防止に努めていききたいと思ひます。

「いじめ未然防止及び早期発見、早期対応に努め、安心して生活できる教育環境づくり」の設問については、職員アンケート結果、保護者アンケート結果共にS評価でした。

教職員は、日々の児童生徒との関わりや、定期的に「学校生活アンケート」を行い児童生徒の様子を把握したりしてきたことで、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるように、支

援方法を考えながら取り組んでいます。今後も安心安全に学校生活を送ることができるように、児童生徒一人一人に合わせた言葉掛けや支援法で取り組んでいきたいと思っています。

